

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度第1回吉川市介護福祉推進協議会
開 催 日 時	平成30年10月4日(木) 午前10時30分から 午前11時50分まで
開 催 場 所	吉川市役所庁議室
出席委員(者)氏名	堀田聰子委員、相羽直人委員、戸張英男委員、中里繁守委員、村岡礼子委員、浅見文男委員、近江谷キヌ子委員
欠席委員(者)氏名	飯田大輔委員、川尻詠子委員、酒井一男委員
担当課職員職氏名	健康長寿部 部長 鈴木 昇 長寿支援課 課長兼副部長 吉田 誠 課長補佐兼高齢福祉係長 大瀧 和寛 課長補佐兼介護給付係長 石塚 晶則 介護認定係長 中村 久美 高齢福祉係主査 木村 みのり その他 市長 中原 恵人 第2地域包括支援センター 高瀬管理者 第3地域包括支援センター 佐藤管理者
会議次第と会議の公開又は非公開の別	(1) 吉川市の高齢化の現状について (2) 地域包括支援センターの運営状況について (3) 吉川市第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画について (4) その他
非公開の理由(会議を非公開にした場合)	
傍 聴 者 の 数	0名
会議資料の名称	・平成30年度第1回吉川市介護福祉推進協議会次第 ・地域包括支援センターの業務(資料1) ・地域包括支援センターの基礎データ(資料2) ・地域包括支援センターの評価(資料3) ・計画の進捗(資料4)
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録

■ 要点記録	
会議録確認指定者	浅見文男委員 近江谷キヌ子委員
その他の必要事項	なし
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<p><b>1 開会</b></p> <p>只今から平成30年度1回吉川市介護福祉推進協議会を開催します。出席人数は10名中7名の委員が出席、過半数に達していますので、議会の成立をご報告申し上げます。堀田会長からご挨拶をお願いいたします。</p> <p>ここからの司会進行を堀田会長にお願いします。よろしく願いいたします。</p> <p>(傍聴許可の説明、議事録署名に浅見文男委員と近江谷キヌ子委員の2名を決定)</p>
会長	
会長	<p><b>2 議事</b></p> <p><b>(1) 吉川市の高齢化の現状について</b></p> <p>議事に入ります。高齢化の現状の説明を事務局からお願いします。</p> <p>(事務局から資料1により説明)</p> <p>ただいまの事務局から説明ありました内容につきまして、ご意見、ご質問等、ございましたらご発言をお願いいたします。</p> <p>いかがでしょうか。</p> <p>(質疑なし)</p>
事務局	<p><b>(2) 地域包括支援センターの運営状況について</b></p> <p>次に議題2の「地域包括支援センターの運営状況」といたします。</p>

	(事務局から資料 1、2、3 により説明)
会長	ただいまの事務局から説明ありました内容につきまして、ご意見、ご質問等、ございましたらご発言をお願いいたします。
会長	地域ケア会議は、3つの包括で個別ケア会議が行われているのか。 また、地域ケア推進会議と地域ケア会議を分けて実施しているのか。
事務局	個別会議と推進会議を分けて実施している。 個別支援ケースの会議と自立支援型ケアマネジメント会議を実施している。
近江谷委員	地域包括支援センターの業務量は莫大である。 4人から5人で動いているのか。2025年を踏まえ、この体制は、今後、見直されていくのか。 地域ケア会議が年3回は少ない。住民に対しても周知が不足している感がある。
事務局	地域包括支援センターの体制は、高齢者の状況等を踏まえ、状況に応じて見直す。地域ケア会議については、1回の会議に、地域として結びつきのある複数の自治会を対象に参加してもらう場合もある。今後は、多くの自治会で地域ケア会議を開催していきたい。
会長	個別会議はもっと頻度を増やしていきたいのか。 事務量でできない状況にあるのか。
事務局	個別会議は、今よりも多い地域で実施していきたい。
会長	個別ケア会議をやみくもに開催するのではなく、何をその会議に求めていきたいか整理・検討してほしい。効果的・効率的に実施する仕組みを考えてはどうか。
	(会長から各委員に発言を促す)

村岡委員	<p>地域包括支援センターが毎月、ケアマネジャー向けに研修会を実施しており、助かっている。地域包括支援センターからケアプランの委託を受ける。電話でやり取りが多く、情報共有が図りづらい。</p> <p>地域包括支援センターの存在は、わかっているが、中身はよくわからない。</p>
中里委員	<p>相談件数が減少しているが。</p>
事務局	<p>人員が一時期、減少し対応が難しく、相談件数が減少した。</p>
中里委員	<p>民生委員が包括の支援に入ることが可能ではないか。</p> <p>相談体制としては、きちんとした体制が必要と思う。</p>
会長	<p>民生委員の担い手が不足するような地域では、中学生が担い手になる事例もある。</p>
戸張委員	<p>かかりつけ歯科、歯科、地域ケア会議などで歯科も関係してくる。</p> <p>うまく連携して取り組んでいきたい。</p>
会長	<p>今後、フレイル予防には口腔も重要。連携が必要と思う。</p> <p>包括支援センターとしては、どのようなことに不足感を感じているのか、また、今後、どのように取組を進めていきたいのか、各包括の皆さんに伺いたい。</p>
高瀬管理者	<p>業務量は多く、4人体制でも大変である。月の半分はケアプランの作成や総合相談業務に追われている。それ以外の時間で、介護予防教室、オレンジカフェ、会議などなんとかこなしている。包括の職員も募集しても給与面の理由などから、なかなか人が集まらない状況にある。</p>
佐藤管理者	<p>業務の振り返りもできていない。感覚としては、数年前に包括支援センターにいた頃に比べ、相談内容が複雑になっていると感じる。色々と関わる地域ごとに考え方違い、難しい面もあるが、職員スキルを向上させて対応していきたい。</p>

会長	<p>市として期待する効果。効率化できること。パートナー側の体制づくり、バックオフィスの機能などを充実させて対応していく必要がある。</p>
近江谷委員	<p><b>(3) 第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画について</b></p> <p>在宅医療サポートセンターは歯科の機能は入らないのか。</p>
事務局	<p>サポートセンターについては、吉川・松伏医師会に委託して設置している。歯科のことについて相談あった場合は、そのことも含めて相談に当たる。</p>
近江谷委員	<p>生活支援コーディネーターとはどのようなものか。</p>
事務局	<p>生活支援コーディネーターは、今後、地域の生活支援体制を整えるため、自治会など地域に出向いて課題の整理や把握、新しいサービスの創出、地域の支え合いの仕組みづくりを行うために配置する人となる。</p>
相羽委員	<p>シニア元気塾のネーミングはひねりが必要。</p> <p>生活支援コーディネーターについては、ヘルパーの不足感もあり、より重い人のケアに従事すべきと思う。資源を集中していくことが重要。</p> <p>任意後見は、成年後見ステーションができれば良いのでは。</p> <p>在宅医療サポートセンターは、専門職をつなぐ場所としてうまく機能していると思う。</p>
中里委員	<p>独居高齢者が増えている。対応が必要と思う。地域をまとめる施策が必要と思う。</p>
会長	<p>しっかりと進めていく体制づくりが重要。</p>
事務局	<p>人手不足はどこでも同じ。硬直化している。</p> <p>7期の重点テーマでは、障がい者、高齢者が活躍できるよう、部門を超えて連携していき、リソース不足を補う必要があると考える。</p>

